放課後等デイサービス事業所における支援プログラム

事業所名

セントラル・パーク 宿院

作成年月日

2026年10月21日

法人(事業所)理念

一人ひとりの子どもがかけがえのない存在として尊重され、安心できる環境の中で自分らしく育つことを支えます。
・子どもの最善の利益を第一に考え、発達の段階と個性に応じた支援を行います。
・放課後や休業日の時間が、子どもにとって安心してくつろげる居場所であり、仲間と関わりながら多様な経験を重ねる場となることを大切にします。
・子どもの意見を聴き、自分で選び、決める経験を通して、自己肯定感と自立への力を育みます。
・家族とともに歩み、学校や地域と連携しながら、子どもの育ちを支える家族の力が高まるよう支援します。
・地域の一員として、子どもが地域の中で人と関わり、自分の役割を見つけていけるよう支援します。

支援方針

国のガイドラインを踏まえ、健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性の5領域を全て含めた総合的な支援を提供します。
・児童発達支援管理責任者がアセスメントに基づき個別支援計画を作成し、保護者と共有したうえで支援を行います。おおむね6か月ごとにモニタリングを行い、計画を見直します。
・本人支援を中心に、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携に一体的に取り組みます。
・学齢期の子どもを対象とし、集団活動を中心とする事業所として、生活リズムを整えつつ、児童同士の関わりや役割のある活動を通して、社会性と自立に向けた力を育てます。
・学校との連携を重視し、学校での様子や支援の方針を共有して、一貫した関わりを行います。
・個別の課題には、集団活動の中での配慮と個別の時間を組み合わせて対応します。
・一人ひとりの学習の状況に応じて、宿題や学習の支援を行い、学ぶ意欲と自信を育てます。

営業時間	月曜日〜土曜日（祝日も営業） 営業時間 9:00〜18:00（サービス提供時間 10:30〜15:30）
送迎実施の有無	あり

本人支援の内容と5領域の関連性

健康・生活

健康状態の維持・改善、生活リズムや生活習慣の形成、基本的な生活スキルの獲得を目指し、放課後の生活場面を通して支援します。
・来所時に健康観察を行い、学校での疲れや体調の変化を把握して、必要に応じて保護者や学校と共有します。

・手洗い、うがい、荷物の整理、おやつの準備と片付け、掃除など、放課後の一連の流れを一定にし、自分でできることを増やします。
・宿題や自由時間、集団活動、休息の時間配分を明確にし、放課後から帰宅までの生活リズムを整えます。休業日は起床から来所までの生活リズムについても保護者と共有します。
・おやつや調理活動を通して、食事のマナーや栄養、衛生への理解を深めます。
・自分の体調や気分に気づき、疲れたときに休む、困ったときに伝えるなど、自分の健康を自分で守る力を育てます。
・思春期に向けた身体の変化やプライバシーへの配慮についても、発達段階に応じて伝えます。

運動・感覚

姿勢と運動・動作の基本的技能の向上、身体の移動能力の向上、保有する感覚の活用、感覚の特性への対応を目指します。
・鬼ごっこ、ボール遊び、リレー、サーキット運動、ダンスなど、集団で楽しめる運動遊びを日課に取り入れ、体力と基本的な運動能力を育てます。
・公園や体育施設への外出活動を通して、広い場所で思い切り身体を動かす機会と、交通ルールや移動のマナーを学ぶ機会をつくります。
・工作、調理、楽器演奏などの活動を通して、手指の巧緻性と道具を扱う力を高めます。
・感覚の過敏さや鈍さがある子どもには、集団の中でも安心して過ごせるよう、静かな場所の確保や活動への参加の仕方を調整します。
・ルールのある運動を通して、勝ち負けの受け止め方や気持ちの切り替えも学びます。

認知・行動

認知の発達と行動の習得、空間・時間・数などの概念形成、対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得を目指します。
・1日の流れをホワイトボードや予定表で示し、時間を意識して行動する力と、自分で見通しを持って動く力を育てます。
・宿題や課題の時間では、集中できる環境を整え、分からないところの質問の仕方や、取り組む順序の決め方を支援します。
・買い物学習や調理活動を通して、お金の計算、量の測り方、手順の理解など、生活の中で使う認知の力を育てます。
・ボードゲームやカードゲームで、ルールの理解、記憶、先を読む力、負けたときの気持ちの調整を経験します。
・気持ちが崩れやすい場面や、集団の中で不適切な行動が出やすい場面は、記録をもとに要因を分析し、事前の声かけや環境の調整で予防します。

言語・コミュニケーション

言語の形成と活用、コミュニケーションの基礎的能力の向上、コミュニケーション手段の選択と活用、状況に応じたコミュニケーションを目指します。
・朝の会や帰りの会、活動の振り返りで、今日あったことや自分の気持ちを言葉で伝える機会を毎日つくります。
・挨拶、お願い、断り方、謝り方、相手の話を聞く姿勢など、相手や場面に応じた言葉の使い方を、集団活動

の実際の場面で練習します。
・友達とのけんかやトラブルは、双方の言い分を職員が聞き取り、気持ちを言葉で伝えて解決する経験の場とします。
・言葉での表出が難しい子どもには、絵カードや文字、機器など本人に合った手段を用意し、集団の中でも意思を表せるようにします。
・SNSやインターネットの使い方など、学齢期に必要なコミュニケーションのルールについても、発達段階に応じて伝えます。

人間関係・社会性

社会的ルールの理解と集団への参加、自己の理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加を目指します。
・異年齢の子どもが一緒に過ごす集団の中で、年下の子を手伝う、年上の子をまねるなど、役割と関係の広がりを経験します。
・グループ活動やおやつ当番、掃除当番など、役割のある活動を通して、集団の一員として認められる経験を積みます。
・ルールのある遊びや話し合い活動で、順番や公平さ、意見の違いを受け入れることを学びます。
・児童同士のトラブルやいじめにつながる言動を職員が早期に把握し、双方の気持ちを尊重しながら解決を支援します。
・自分の得意なことや苦手なことに気づき、困ったときに助けを求める、自分で気持ちを落ち着かせるなど、自己理解と行動の調整の力を育てます。
・地域の行事やボランティア活動への参加を通して、地域の人と関わる機会をつくります。

その他の支援内容

家族支援(きょうだいへの支援を含む)

家族が子どもの発達を理解し、安心して子育てに向き合えるよう、家族全体を支える視点で支援します。
・送迎時や連絡帳、電話などを通して日々の様子を伝え合い、家庭での困りごとを気軽に相談できる関係づくりに努めます。
・児童発達支援管理責任者が定期的に面談を行い、個別支援計画や子どもの成長を共有し、家庭での関わり方や学校との連携について一緒に考えます。
・学校からの連絡事項や宿題の状況など、事業所での様子を保護者と共有し、家庭と学校と事業所の三者で一貫した関わりができるようにします。
・思春期の悩みや進路、将来の生活についての相談に応じ、必要に応じて関係機関を紹介します。
・きょうだいについては、保護者の相談に応じるとともに、きょうだいの気持ちや負担に配慮し、行事への参加や関係機関の紹介を行います。
・保護者同士が交流できる場を設け、孤立を防ぎ、経験を分かち合えるよう努めます。

移行支援の内容

子どもが学校生活や進学、卒業後の進路へ円滑に移行し、地域社会の中で自立した生活に向かえるよう支援します。
・小学校、中学校、高等学校や特別支援学校への進学時には、保護者の同意を得たうえで、学校に子どもの特性や有効な支援方法をまとめた情報を提供し、引き継ぎの場を設けます。
・学校の担任や特別支援教育コーディネーターと連絡を取り合い、学校での様子と事業所での様子を共有して

、一貫した関わりを行います。
・高学年以降は、進路や卒業後の生活について本人と保護者の希望を聴き、就労支援や生活介護などの福祉サービス、地域の余暇活動の情報提供を行います。
・卒業に向けて、公共交通機関の利用、買い物、余暇の過ごし方など、地域で生活するための力を活動に取り入れます。
・地域の子どもとともに育つインクルージョンの視点を大切にし、放課後児童クラブや地域の活動への参加を後押しします。

地域支援・地域連携の内容

子どもと家族が地域の中で安心して暮らせるよう、学校をはじめとする地域の関係機関と連携し、地域における障害児支援の充実に貢献します。
・学校、相談支援事業所、医療機関、自治体の担当課、放課後児童クラブなどと、保護者の同意のもとで情報を共有し、支援の方向性を揃えます。
・学校との連携では、年度初めに支援の方針を共有し、必要に応じて授業や行事の見学、ケース会議への参加を行います。
・地域の(自立支援)協議会やこども部会、事業所連絡会などに参加し、地域の課題の把握とネットワークづくりに努めます。
・公園や図書館、商店街などの地域資源を活動に取り入れ、子どもが地域の人と関わり、地域に受け入れられる経験をつくります。
・地域の行事や清掃活動などへの参加を通して、子どもが地域に貢献する機会をつくります。

職員の質の向上に資する取組

職員一人ひとりが専門性を高め、チームとして質の高い支援を提供できるよう、計画的な研修と日常的な学び合いに取り組みます。
・国のガイドライン、虐待防止、身体拘束等の適正化、安全管理、感染症対策、個人情報保護などについて、年間の研修計画を立てて内部研修を実施します。
・送迎時や外出活動時の安全管理、児童間のトラブルやいじめへの対応、思春期の理解、プライバシーへの配慮など、学齢期の支援に必要な内容を研修に取り入れます。
・外部研修や自治体、関係団体が実施する研修に職員が参加できるよう機会を確保し、内容を事業所内で共有します。
・支援の振り返りや事例検討を定期的に行い、集団の中での個別の配慮について職員間で確認します。
・児童発達支援管理責任者が中心となり、新任職員への指導や日常的な助言を行います。
・自己評価と保護者評価を毎年実施し、結果を公表するとともに、改善に取り組みます。

主な行事等

季節や地域の文化に触れ、仲間や家族、地域の人と一緒に楽しむ機会として、年間を通じて行事を計画します。行事の企画や準備には、子どもが意見を出し、役割を持って参加できるようにします。
・春: 新年度の歓迎会、春の公園への外出
・夏: 夏休みの外出活動、調理活動
・秋: スポーツ活動、秋の遠足
・冬: クリスマス会、年末年始の行事、進級のお祝い会

・年間を通じて: 誕生会、クッキング、買い物学習、避難訓練・防犯訓練（送迎中や外出先での被災を想定した訓練を含む）、地域の行事への参加、保護者面談、保護者同士の交流会
実施時期や内容は年度ごとに事業所で定め、保護者にお知らせします。